

◆持続可能な行政経営

平成20年主要事務事業229事業を対象に事務事業評価を実施し、今後の方向性を検討しました。

1 行政評価とは

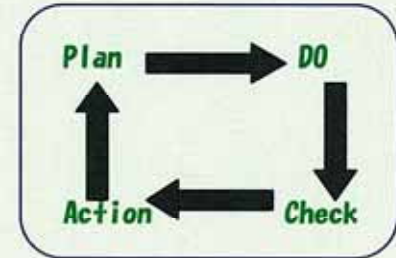
行政評価は一般的に、「政策、施策、事務事業を統一的な基準を用いて、妥当性や有効性、効率性など様々な視点から客観的に評価し、その結果を改善に結びつける手法」と言われています。

行政は、これまで「計画し予算を確保（P：Plan）して、事業を執行（D：Do）する」ことが中心で「執行した結果を評価・検証（C：Check）し、改善・見直して（A：Action）次の計画に反映させる」ことが疎かになりがちでした。

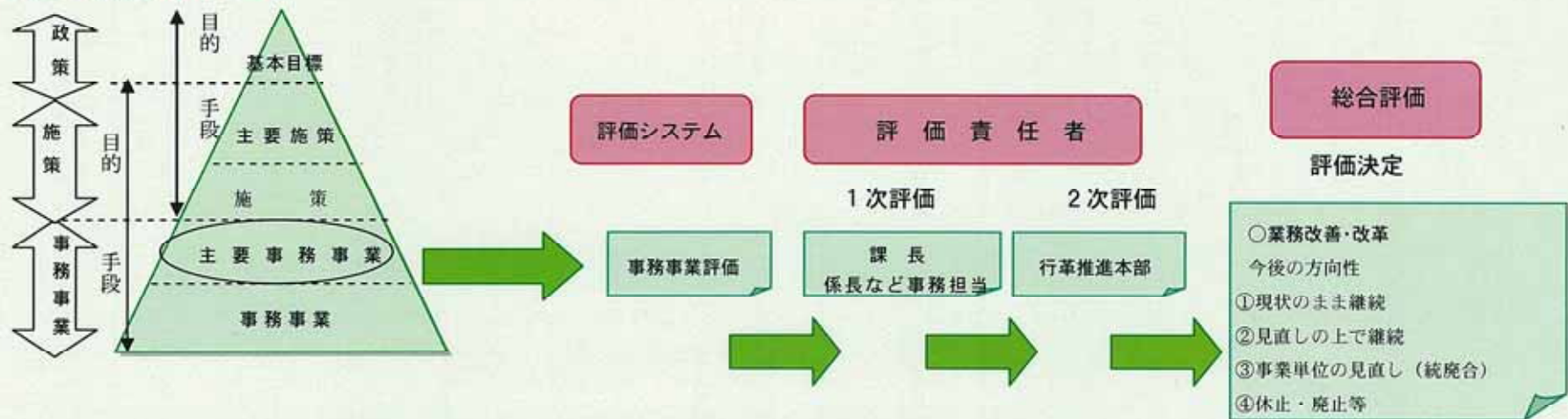
本市では、施策や事務事業について、どんな姿にしたいのか、どのくらいの資源を投入するのか、どのような活動により目標を達成するのかなどの指標を設定し、評価シートに記入することにより、客観的な視点で、点検し、改善につなげてまいります。

行政評価は、総合計画を達成するための手段であり、評価を行うことで、事業を削減したり課題が解決したりするものではありません。評価結果に基づき、問題点や課題を明らかにして、改善に取り組みます。また、客観的な視点から事務事業を分析することによって、気づきや改善の方向性を検討するなど、職員の意識改革や議論を通じて職場の活性化を図り、持続可能な行政経営を行うためのツールなのです。

PDCAサイクル



2 事務事業評価の仕組み



◆評価対象は第1次富岡市総合計画に掲げる主要事務事業が対象です